

予防接種の最新知識

石和田 稔彦

千葉大学 真菌医学研究センター 感染症制御分野

日本は、他の先進諸国と比較しワクチン導入が遅れ、ワクチンギャップがあると言われてきた。しかし、最近の状況をみると、多くのワクチンが国内で承認され、定期接種化されたことにより、そのギャップは解消されつつある。一方、新たな問題として、成人を主体とした麻疹や風疹の小流行が各地で起こり、その対策が急務となっている。また、百日咳はLAMP法による早期病原診断が可能になったこと、全数届け出が開始されたことにより、3種混合ワクチンの追加接種の必要性がより明らかになり、その接種時期に関して活発な議論が行われるようになってきている。インフルエンザ菌b型ワクチンや13価肺炎球菌結合型ワクチンは小児の髄膜炎をはじめとする侵襲性細菌感染症を減少させたが、新しい問題としてワクチンに含まれない血清型による侵襲性細菌感染症が顕在化してきている。ヒトパピローマウイルスワクチンに関しては、定期接種であるものの、積極的接種勧奨を行わない方針が続いており、接種率は低いままである。本講演では、上記点を含め予防接種に関する最新の情報をフロアの皆様と共有し、新たな問題に対する解決方法について共に考える機会にしたい。予防接種は、乳幼児のみに行う時代から、学生や成人に対しても積極的に行っていかなければならない時代になってきている。予防接種を円滑に実施していくためには、ワクチンのリスクとベネフィットを正しく理解することが必要である。私たちは、高校生や大学生、養護教諭を対象とした予防接種に関するリスク教育活動を行っている。その試みについても、当日ご紹介したいと考えている。